

体験記 01

ジョージア・トビリシ

# コーカサスの小さな国、 ジョージア滞在記

—— 福永佳津子



ふくながかつこ 海外生活カウンセラー。

ロングステイ財団政策審議委員。城西エクステンション・プログラム講師。長期滞在型・ロングステイ観光学会理事。海外邦人安全協会理事。NPO法人国際人をめざす会副会長。上智大学卒。在ニューヨーク6年。マンハッタンビルカレッジで修士号取得。異文化適応と危機管理を専門とする。海外生活に関する講演、執筆多数。

遠く果てない国だった  
ジョージア

まだコロナ騒ぎが聞こえていなかった冬真つ只中の1月、ジョージアから一時帰国中の友人を前にカフェラテの白い泡をもてあそんでいた時のことだ。唐突に「来ない？ジョージア」と言い出されて、「そ、そうだよな」となったのだから、私は相当にお調子者だ。黒海の東側で、え〜とソ連邦から独立した元グルジアと呼ばれた国……で、栃ノ心……。基礎知識さえ後付けの、遠く果てない国だったのに。

まずは町の全体像を掴んでみる

5世紀に首都となったトビリシは、東京ともニューヨークともパリとも違う、派手さや賑わいとは無縁の落ち着いた都市だ。

国の人口390万人のうち、110万人が集中する古都で選んだ宿は、町のメインストリート、ルスタヴェリ大通りまで石畳の坂を下って3分とかからず、リバティ・スクエア駅までも5分という抜群のロケーションにあり、コンパクトで小綺麗なしつらえに加えて朝食付きだった。

初日は町の全容をざっくり把握しようとして、宿から20分ほどのナリカラ要塞に昇ってみた。ロープウェイが斜度を上げるたびに眼下の景色があつという間に遠方まで広がる。町をムトウクヴァリ川が二分する様を飲み込み、シンポリックに立ちそびえるメテヒ教会とツミンダ・サメバ大聖堂の位置を確認すれば、トビリシは我がものだ。このロープウェイ乗り場の足元は硫黄の匂いが優しく漂う温泉街で、ドーム

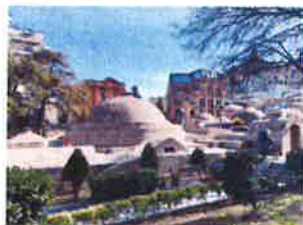
の人口390万人のうち、110万人が集中する古都で選んだ宿は、町のメインストリート、ルスタヴェリ大通りまで石畳の坂を下って3分とかからず、リバティ・スクエア駅までも5分という抜群のロケーションにあり、コンパクトで小綺麗なしつらえに加えて朝食付きだった。初日は町の全容をざっくり把握しようとして、宿から20分ほどのナリカラ要塞に昇ってみた。ロープウェイが斜度を上げるたびに眼下の景色があつという間に遠方まで広がる。町をムトウクヴァリ川が二分する様を飲み込み、シンポリックに立ちそびえるメテヒ教会とツミンダ・サメバ大聖堂の位置を確認すれば、トビリシは我がものだ。このロープウェイ乗り場の足元は硫黄の匂いが優しく漂う温泉街で、ドーム



型の屋根の下に個室風呂や公衆浴場があり、湯槽で熱い湯に浸かれるとなれば、絶対に訪れたい。ここから旧市街地までは目と鼻の先で、長きにわたり、ジョージア正教会の総本山として君臨したシオニ大聖堂からは信者たちの聖歌が漏れ響いて、思わず足が止まった。この一角の石畳の勾配はさらに



ナリカラ要塞から見下ろす古都の風景。中央を流れるのは、ムトウクヴァリ川



温泉街の公衆浴場。ドームの下が温泉

険しく、アップダウンを強いなが、壊れかけた歴史ある建物や今にもずり落ちそうならくり時計塔に見惚れていけば、何のことはない。足元にジョージアの歴史を感じながら、私はいつになくフットワーク良く歩き回った。いろいろな町の表情を感じる

地下鉄に乗るべく、駅へ。しかし、地下底深くから群れ上がってくる降客たちの様を見ると、どこまで奥が深いのかとビビった。さらに、エスカレーターのスピードが速いの何の。何とか地下に吸い込まれれば、ホームはひとつで迷わない。この電車。お世辞にも綺麗とは言い難い上、走行中のスピードが速く、ドアはパツと開いてさつと閉まるが、すぐ慣れる。乗り降りにはSuicaにあたる乗車カードをエ